

《カリキュラム・マネジメント評価表》

学校番号	高等学校名	課程	指定事業等(国・県ほか)
中等3	茨城県立古河中等教育学校	全日制	チャレンジ・プロジェクト(重点校)

重点度	項目	現状分析と課題【R3】	目 標【GOAL】	取 組【PLAN】⇒実施状況【DO】	検 証【CHECK】 成 果	対 応【ACTION】 次年度【R4】への課題と取組の方向性
1	学習指導 (教育課程)	【現状】 ・後期課程の新学期指導要領の実施に伴い、6年間の学習指導計画概要を再構築し、年間指導計画や教科のグランドデザインを作成し、生徒の自主的・主体的な学習態度の育成を目指し取り組んでいる。 【課題】 ・年間指導計画や教科のグランドデザインを基に、生徒の自主的・主体的な学習態度の育成と個に応じた学習支援 ・ICT等を活用した探究的な学びや教科横断型の学習活動の研究と実践	・学びの基礎診断 4年次:ベネッセ 1月総合学力テスト3教科(英数国) 学習到達ゾーン:S3以上の生徒20%以上、A3以上の生徒50%以上、B2以上の生徒100% 3年次:バーチャル高校入試(9月)新学社(5教科) 450点以上の生徒20%以上、400点以上の生徒50%以上、350点以上の生徒100% ・「授業に対して肯定的に評価している生徒」の割合90%以上 ・「Eノフィア・プロジェクト(古河中等式探究活動)」に対して肯定的に評価している生徒・保護者」の割合90%以上	・授業形態の工夫(習熟度別、少人数、チーム・ティーチング等)⇒○ ・授業実践の工夫(アクティブ・ラーニング、ICT活用等)⇒○ ・SUTや土曜講座を利用しての個に応じた指導⇒△ ・授業形態の工夫(習熟度別、少人数、チーム・ティーチング等)⇒○ ・授業実践の工夫(アクティブ・ラーニング、ICT活用等)⇒○ ・Eノフィア・プロジェクト(古河中等式探究活動)に対して肯定的に評価している生徒・保護者との連携によるEノフィア・プロジェクトの計画的な実施⇒○	・高い学力の育成 4年次:ベネッセ 1月総合学力テスト3教科(英数国) 学習到達ゾーン:S3以上の生徒20.0%、A3以上の生徒62.6%以上、B2以上の生徒88.7% 3年次:バーチャル高校入試(9月)新学社(5教科) 450点以上の生徒8.1%、400点以上の生徒54.1%、350点以上の生徒82.0% ・「授業に対して肯定的に評価している生徒」の割合88.6% ・「Eノフィア・プロジェクト(古河中等式探究活動)」に対して肯定的に評価している生徒・保護者」の割合90.9%	【課題】 ・授業の改善や工夫等を通して、上位層のさらなる伸長と下位層の底上げが必要である。 ・授業形態の工夫やICTを効果的に活用し、生徒の主体的・対話的な活動をさらに充実させ、探究的な深い学びへと繋げることが必要である。 ・Eノフィア・プロジェクトの各委員会と各教科部・各年次・各教科との連携強化が引き続き必要である。 【取組の方向性】 ・ICT教材を効果的に活用した個に応じた支援 ・各教科の年間指導計画とグランドデザインの評価・改善によるPDCAサイクルの構築 ・Eノフィア・プロジェクトのさらなる充実に向けた組織活性化
2	進路指導 キャリア教育	【現状】 ・キャリア・プランニング能力の育成及び課題発見・課題解決能力の伸長において、各種進路講演会や適性検査等で全体への指導を行っている。 ・系統的キャリア教育の実施と支援体制の確立において、目標設定の明確化及びその実現へと繋げる指導の系統立てを充実させる必要がある。 【課題】 ・個別への声かけや面談の充実を図り、綿密な指導を行う。 ・キャリア・パスポートへの記入を徹底させ、自己の目標や活動の記録を残し、進路選択に繋げる。 ・外部模試や適性検査等の結果分析をもとに指導することにより、自らの力を客観視させたうえで目標を設定させ、それぞれの適性と到達目標に向けた進路実現へと繋げる。	・生徒一人一人の進路希望の把握と進路相談のための面談の充実 ・年間面談実施回数:保護者面談2回、二者面談2回以上随時、声かけ随時 ・進路講演会(外部講師・教員によるもの)の実施(年2回以上) ・外部模試や適性検査等の分析指導・目標設定(「学習指導(教育課程)」参照) ・生徒による年間模試分析実施回数:2回以上 ・キャリア・パスポートへの記入100%	・保護者面談実施の取組⇒○ ・二者面談の取り組み・声かけ⇒○ ・進路講演会⇒△ ・分析指導・目標設定⇒○ ・生徒による外部模試・適性検査等の分析指導⇒△ ・キャリア・パスポートへの記入⇒△	・生徒一人一人の進路希望の把握と進路相談のための面談の充実⇒90% ・年間面談実施回数:保護者面談2回、二者面談2回以上随時、声かけ随時⇒90% ・進路講演会(外部講師・教員によるもの)の実施(年2回以上)⇒80% ・外部模試や適性検査等の分析指導・目標設定⇒90% ・生徒による外部模試・適性検査等の分析指導⇒80% ・キャリア・パスポートへの記入80%	【課題】 ・生徒一人一人への声かけや面談をさらに充実させ、より生徒の状態を把握するとともに、それぞれの進路実現に向けての支援を引き続き行う必要がある。 ・年間面談実施回数については達成できた。声かけの方はさらに適切に行う。 ・講演会等の実施による全体への指導は、特に前期で回数が少なかったため、可能な範囲で今後実施回数を多くしたい。 【取組の方向性】 ・生徒自身が外部模試後にもICT教材を利用した模試分析を行うとともに、より明確な目標を設定することで、充実した支援に繋げる。 ・ICT教材を適切に利用し、キャリアパスポートの記入を効果的に行う。
3	生徒指導	【現状】 ・基本的な生活習慣の育成や望ましい人間関係の確立を目指し、個に寄り添った生徒指導を実践している。 ・教職員間の共通認識のもと規範意識を醸成している。 【課題】 ・教育相談体制の確立 ・規範意識の向上 ・生徒指導に関わる共通理解事項の周知徹底	・「理由なし遅刻生徒」0% ・「不登校の昨年度比」10%減 ・「校則の定期的な見直しを実行」100% ・「問題行動」0件	・「朝の登校指導」と「朝の読書の時間」の継続⇒△ ・不登校生徒を減らすため、アンケートや教育相談の積極的な実施⇒△ ・不登校役員を中心とした「校則の見直しについて」の会議やアンケートの実施⇒○ ・生徒指導部会の定期的な実施の中での情報交換及び校則等に関する事項の話し合い⇒○ ・ポータルサイトを利用した、生徒指導関連事項の周知⇒○ ・問題行動に対する啓発や外部の人材等を活用した教室の実施⇒△ ・教育相談体制の充実による、問題行動等の未然防止⇒△	・冬季に入り、寝坊等の遅刻者の数が増えた。 ・不登校者は昨年度と比較し、同程度いるが、フリースクールの利用率は上がった。 ・校則の見直しは、月2回の部会において適宜行った。 ・「問題行動」11件	【課題】 ・教員間の共通理解を促進し、「チーム学校」としての職員一丸となった指導体制の構築。 ・教育相談の充実。 ・生徒の規範意識の向上と定着。 【取組の方向性】 ・生徒指導要領の改訂ポイントや社会情勢を鑑み、校則を含む規則の見直しを図る。 ・校則の見直しを生徒と共に進めることで、規範意識を再確認し、定着を図る。 ・教育相談において、SC予備面談を行うなど、生徒を見守る目を広げ、学校として生徒を守る体制を整える。
	特別活動 (部活動は含まない)	【現状】 ・生徒会、実行委員会、ホームルーム委員長を各種行事の企画・運営の中心とし、生徒の自主的・自発的な活動を促し、実践している。 ・新型コロナウイルス感染症流行状況に配慮した、地域や各機関と連携してした自然体験活動や社会奉仕体験活動等の計画を行っている。 【課題】 ・コロナ禍で学校全体で行うことが難しい行事に関しては、昨年を参考にし、どれだけコロナ禍前のやり方に近い近づけた実施方法に戻していくこと。	・感染状況に対応した各行事の実行 行事実施率 100% ・コロナ禍前のやり方に近い形での学校行事の実施 コロナ禍前(100)と比較して、60%以上	・各行事の実行への取組⇒計画どおり実施できている。 ・コロナ禍前との比較⇒変異株など感染状況を踏まえる	・対面式、部活動説明会、生徒総会、文化祭は人数に制限を設け、昨年度に比べてコロナ禍前に近づけたかたちで実施できた。特に文化祭は次年度以降の一般公開を念頭に校内のみの2日間開催で実施した。 ・立会演説会や表彰式、壮行会は昨年度同様にGoogle Meetを用いてオンラインで実施した。 ・体育祭は創立10周年記念式典との兼ね合いもあり全体では計画せず、年次毎の計画で可能な範囲での実施となった。 ・行事の開催に当たっては、生徒会を中心に生徒が自主的に計画・立案・実施に関わり行うことができた。	【課題】 ・前年度・今年度とWITHコロナの中、各行事とも感染予防対策を優先しつつも、状況に応じてできる限りコロナ禍前に近い開催方法模索の継続。 【取組の方向性】 ・より生徒が自主的に関わり、生徒同士が同じ空間で一緒に活動できる行事の実現を目指す。そのため、コロナ禍前と同様の各行事の開催計画を進め、状況に応じたオンライン開催や縮小開催など副案も用意し、行事が実施できるよう努める。
	地域との 連携 (保護者、地域住民等)	【現状】 ・家庭・地域社会と学校が一体となった取組の積極的な推進を図っている。 【課題】 ・授業公開(課題研究発表等)の推進及びHP等による学校教育活動の情報発信 ・保護者に寄り添った対応 ・新型コロナウイルス感染症に伴う保護者、地域との連携(ICTを活用する等)	・家庭・地域社会と学校が一体となった取組の推進 ・教育活動の地域への発信	・PTA、年次後援会、スクールバス運行運営会等との連携⇒○ ・各教科における地域の人的・物的資源を活用⇒△ ・地域の専門機関(警察、教育支援センター等)との連携⇒○ ・課題研究発表会の実施⇒○ ・学校評議員会の開催⇒△	・今年度は昨年度以上に、PTA、年次後援会、スクールバス運行運営会等について連携が図れた。 ・家庭科において地域の人的・物的資源を活用したが、他教科での活用は少なかった。 ・地域の専門機関(古河警察署等)と連携し、生徒指導関係行事(交通安全、携帯、薬物乱用等)の実施、及び教育支援センターと連携した不登校生徒、保護者への対応を実施した。 ・古河市教育長、学校評議員、市内小学校校長を招いて課題研究発表会を実施した。 ・第1回目は開催できたが、第2回目は欠席者も多く資料のみによる報告となった。しかし、評議員の方々からは多くの意見を頂戴し学校運営に活かすことができた。	【課題】 ・開かれた教育課程の再構築 ・教育活動全般における家庭、地域社会、外部有識者とのより一層の連携・協働が必要 【取組の方向性】 ・本校教育活動の理解推進(学校公開、懇談会、ホームページ等による情報発信)及び意見等聴取。さらに意見等を踏まえての教育活動の見直し ・教育活動における家庭、地域社会との連携・協働の構築
	教育環境 整備	【現状】 ・習熟度別授業や少人数授業等の実践に伴う施設の確保や整備に取り組んでいる。 ・蔵書構成を考慮し、広範な分野からの図書資料収集に努め、図書館資料の拡充を図っている。 【課題】 ・校務部や各教科との連携による、授業等の活動場所と時間帯の調整 ・リクエストカードの活用や各教科、課題研究委員会との連携による、探究活動のための図書資料の選定と収集	・学習形態に合わせた教室数の確保 100% ・バランスのとれた図書資料の拡充 ・小論文指導や生徒の探究活動のための図書資料の整備	・習熟度別授業や少人数授業等で使用する教室数の把握⇒○ ・学習形態に合わせた施設や教室の確保と整備⇒△ ・リクエストカードを利用した生徒・教職員の購入希望図書の把握⇒○ ・図書資料の収集⇒○	・学習形態に合わせた教室数の確保 100% ・リクエストカードに加え、リクエストボックスを各階に設置したことで、バランスのとれた図書資料の拡充に繋げることができた。 ・小論文指導や探究活動のための図書資料について、生徒や教員の希望に合わせた整備ができた。	【課題】 ・ICT環境の整備が必要な教室について、機器等の充実を図る。 ・各教科部や各年次、各教科と連携を取りながら希望図書の把握に努める。 【取組の方向性】 ・各教科における使用教室数の把握と各利用教室のICT環境の整備 ・リクエストカードやリクエストボックスの継続的な活用等による図書資料の選定・収集
	組織運営 (働き方改革)	【現状】 ・学校全体として平均超過勤務時間月45時間以内はおおむね実施することができるが、月100時間近く勤務している教職員がいるなど偏りが生じている。 【課題】 ・校務分掌の分散化や短時間で打合せ等の情報共有の場の設定等 ・部活動における適切な休養日及び活動時間の基準明示、外部人材の導入 ・学校行事等の精選、見直し ・年休、振替等の取得しやすい雰囲気づくり	・平均超過勤務時間月45時間以内実施(12か月)及び勤務の偏りの解消	・勤務時間の客観的把握(「きんむくん」の活用)の取組⇒○ ・部活動複数顧問制の取組⇒○ ・平均超過勤務時間 100時間以上職員への声かけ改善相談⇒△	・平均超過勤務時間 月45時間以内実施 7か月(1月まで(10か月))	【課題】 ・学校全体として平均超過勤務時間月45時間以内はおおむね実施することができるが、月100時間近く勤務している教職員がいるなど偏りが生じている。 【取組の方向性】 ・校務分掌の分散化・日課表の見直し・短時間で打合せ等の情報共有の場の設定 ・学校行事等の精選、見直し ・年休、振替等の取得しやすい雰囲気づくり
	保健管理 安全管理	【現状】 ・新型コロナウイルス感染症対策に取り組みながら各種検診検査、学校環境・学校安全の確保に努めている。 ・感染症を持ち込まないための体調管理や欠席、問合せ・相談の連絡など対応に追われてしまう現状がある。 ・新型コロナウイルス感染症拡大流行前に比べて不登校生徒が多く、今後も増える傾向にある。 【課題】 ・感染症予防対策の継続(日常の体調管理、換気・消毒など)、体調管理の効率化。 ・心に問題を抱える生徒の早期発見・対応。学校環境の改善・向上。 ・防災教育、避難訓練の計画的実施。	・感染予防対策(体調管理チェック・施設設備の消毒・三密回避など)を継続し、安全な学校環境の保持に努める。 ・各種定期健康診断や日常の健康観察や健康相談により、心身の健康問題を有する生徒の早期発見と事後指導による改善に努める。 ・学校環境衛生の検査や管理を適切に行い、それらの維持改善を図る。 ・避難訓練の実施 2回 ・安全点検の実施	・グーグルフォームを活用しての体調管理⇒△ ・各種検診検査の実施⇒○ ・学校衛生検査の実施⇒○ ・5月校内訓練実施、10月も感染症対策下の為校内訓練を実施⇒△ ・安全点検6月実施⇒○	・感染予防対策を継続し、安全な学校環境の保持に努めたことで、感染症が広がることはなかった。 ・健診実施において、新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けたが、工夫をしながら計画された検査検診や健康指導を実施することができた。 ・2回の検査を計画通り実施し、すべての項目で基準を満たした。 ・第1回の避難訓練を迅速に実施し、各教室からの避難路を確認させることができた。 ・安全点検を2回(6月・11月)実施し、改善箇所を把握し、対応できた。	【課題】 ・オンラインを用いた体調管理システムへの入力や失念してしまうケースが一定数存在する。 ・新型コロナウイルス感染症流行の影響から関係機関の協力を得ることができず、第2回の避難訓練(消防訓練)を実施できなかった。 【取組の方向性】 ・生徒理解や家庭の状況把握に努めるとともに、毎日の体調管理を基本とした安全教育の実践 ・関係機関の協力のもと、避難訓練等の実践的な防災教育の実施 ・施設設備の経年劣化を踏まえた環境衛生を含む安全点検及び環境整備の実施
	研修 (資質向上の取組)	【現状】 ・ICTを活用した探究的な学習活動を推進していくため、授業実践事例の収集に努めている。 【課題】 ・コンプライアンス研修を定期的に実施し、教職員の資質の確保・向上に努めている。 ・ICTを活用した授業実践事例の収集と研修の充実 ・コンプライアンス研修の定期的な実施と教職員間での情報共有	・「コンピュータやタブレットなどを活用し、学びの進め方を工夫している教員」の割合80%以上 ・教職員による信用失墜行為件数 0件	・ICT機器の活用に関する研修の実施⇒△ ・ICTを活用した授業実践事例に関する研修の実施⇒△ ・コンプライアンス研修の実施⇒○ ・教育関係法規・資料等の理解⇒○	・「コンピュータやタブレットなどを活用し、学びの進め方を工夫している教員」の割合78.8% ・教職員による信用失墜行為件数 0件	【課題】 ・「コンピュータやタブレットなどを活用し、学びの進め方を工夫している教員」の割合をさらに高めていくとともに、より効果的な活用方法について研究を深めていく必要がある。 ・継続してコンプライアンス研修の定期的な実施と教職員間での情報共有が必要である。 【取組の方向性】 ・教職員間の授業見学等を通じ、ICTのより効果的な活用方法の研究 ・教育関係法規や教育時事・答申に関する情報の提供や共有の継続
3	情報提供 (広報、生徒募集)	【現状】 ・下館一高、水海道一高附属中の開校により、本校の志願倍率低下が予想されたが、様々な広報活動の取組の成果もあり、2倍台を維持した。しかし、古河市が伸びている一方で、他の市町については全て減少傾向にあるため、より一層戦略的かつ効果的な広報活動が必要である。 【課題】 ・広報活動の対象者や活動内容、日程等を再度見直し、より一層戦略的、効果的な活動となるよう繰り返す。	・戦略的な広報活動の実施 ・学校リーフレットによって医学コース、進学実績、部活動活動状況等を県西地区小学4～6年生に知らせるとともに、学校説明会(オープンスクール)、学校公開、オープントイムの小学6年生の参加率を募集定員の3倍以上とする。 ・志願倍率3倍以上	・学校説明会(オープンスクール)、学校公開、オープントイムによる効果的な広報活動⇒△ ・県西地区小学校訪問(管理職)⇒○ ・ホームページ・各種便り等による学校情報の随時発信⇒○ ・県西地区教育委員会訪問年2回(管理職)⇒△ ・県西地区小学校訪問(管理職)⇒○	・早期から志願者を獲得するために今年度は4年生にも案内を配布した。効果については複数年視る必要がある。 ・小学校訪問を実施し、各小学校からは概ね好評評価が得られた。 ・随時発信している。 ・訪問は校長のみで、1回だけだった。 ・小学校訪問を実施し、各小学校からは概ね好評評価が得られた。	【課題】 ・下館一高、下妻一高、水海道一高附属中の影響と児童数減少により、志願者が1.83倍と2倍台を切ってしまったが、他校の現状と比較してもかなり健闘している状況にある。しかし、特に結城市、筑西市においては志願者がかなり減少しているため、今後より一層戦略的かつ効果的な広報活動が必要である。 【取組の方向性】 ・広報活動の対象者や活動内容、日程等を再度見直し、より一層戦略的、効果的な活動となるよう繰り返す。